（1）竣功せる日本生命館全景。

日本生命館の建築に就て

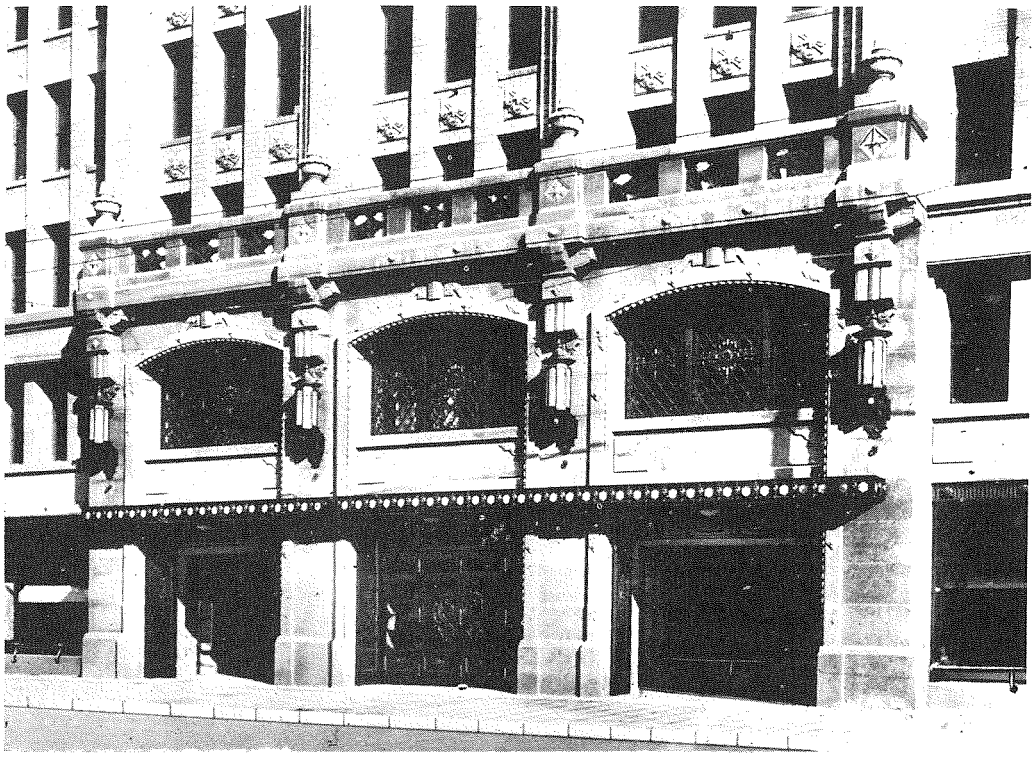
高橋貞太郎

帝都の中樞地、日本橋區通二丁目の一劃に現れたる日本生命館、も烏滸がましき中分ではあるが、たしかに、あの一帶が明るくなつたと感じられる。地下二階、地上八階、屋上階最高部まで128尺、總面積8,900坪、設計より竣工まで約三年、工費總額520萬圓、從業延人員28萬人の一大建築である。

交通繁華のあの地帶で、地下40尺まで總堀りとしての大仕事、7,000噸の鐵骨と、2,000噸の鐵筋4,500立坪のコンクリートを持ち込んで容積立坪の屋體を作りあげるんですから、事故や少し許りの死傷位はありそうに思はれるのですが、幸に交通上何等の事故をも起さず、一名の死者も出さずに完成された事は誠に同慶の至りに堪えない事で、現場監督員は勿論、工事請負人たる大林組、三機工業等の各員の熱誠と注意とによるものであるが、一に神佛の加護を受けたと申す外はない。一同と共に深く感謝して居る次第である。

敷地

三面道路に接したる矩形の後部に一部分矩形突出を有する1千餘坪の敷地で百貨店の平面計畫には比較的好都合なるものである、た



（2） 正面高島屋玄關3スパンの内、冬季は兩側からのみ出入する。

だ前面道路が15間なるに對し、南面及び北面は夫々5間及び8間の道路なるが故に、現行法規によつては、高さの制限を可なり手痛く受ける結果になつた。卽ち南面に於ては七八階に於て一部分約9尺後退の止むなきに至り、北面に於ては道路に面しては四階までより建つる事能はず、また最高制限を受くる爲めに六階までより建たない部分すらある。之を要するに、百貨店としては、その營業の性質上周圍の三邊以上に道路のある、事は絶對必要條件であるが、然もその何れもが相當の幅員を有するものでないと、建築上に非常なる損失を來すものである事を忘れてはならない。從つてかゝる道路に面せる敷地はその價格に於ても當然低下すべきものである。

尙ほ自動車のパーキングに就ては、更に適當なる方途を講ずるに非れば、現在のまゝを以てしては到底滿足なる結果を得られないものと信ずる。

平面計畫

一般懸賞募集に提示せられたる平面は、日本生命側として片岡博士、高島屋側として故岡田信一郎氏が夫々參畫されて出來たものの由で、現在のものは勿論その延長に過ぎないのである。

正面の幅員から推して、之を11スパンに割るべきか或は9スパンに割るべきか、可なり研究されたのであるが、諸種の事情を綜合し、夫々の重要さを秤量して、遂に11スパンと決定したものである。從つて柱間は正面側は19尺餘である。奥行も亦18尺餘である。その結果百貨店の柱間としては、些か狹きに失しやしないかと危ぶんだのであるが、幸に高島屋側で陳列方法陳列ケース等に絶大の注意研究を拂はれて、その不安を一掃された事は、誠に

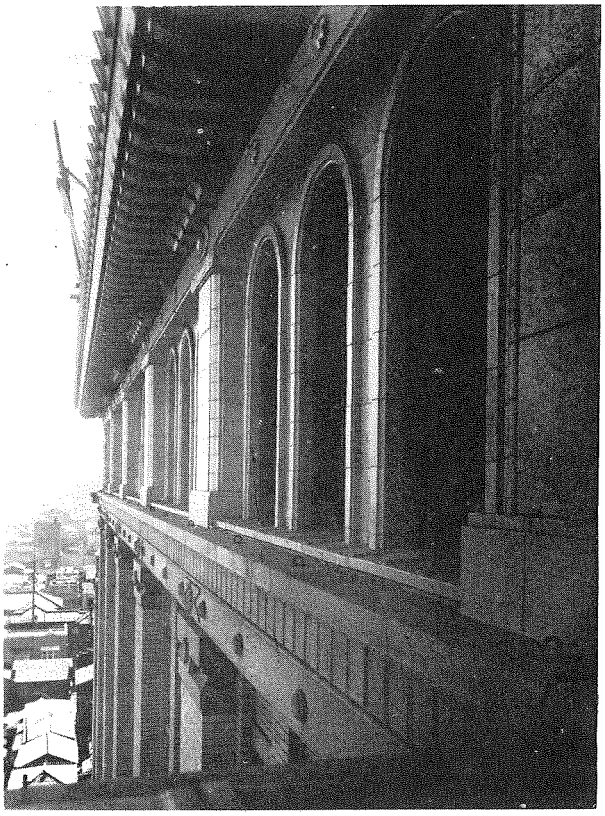
同慶の至りに堪えない。たゞそのために階段の踊場等には幾分の無理がある事を見逃す譯には行かない。

區　劃

百貨店を目的とする爲めに、賣場面積を最も廣く且つ明快にすべく敷地前方の矩形部を全部賣場に充て、後方突出矩形部だけを高島屋用事務館として居る。日本生命支店用としては、六七階の南側を使用して居る。

出入口

正面の三スパンを主要出入口とし南面に二スパン、北面に一スパンの出入口を有して居る。南面には別に東南隅に日本生命專用の玄關を有し昇降機を以て、直ちに上階六七階の支店事務室に通ずる。北面には東の方によつて高島屋の店員出入口及び發送口を有す。別に地下第一階の西北隅に地下鐵に連絡する客用出入口があつて、白木屋へは地下道によつて直接連絡されて居る。



（3） ギヤラリーの窓から見た八階窓廻り。

階段及び昇降機

一階正面玄關の突き當りに速度毎分400呎の客用昇降機六臺を配し、北口及び地下鐵連絡口の客に對して二臺の昇降機を充て、南口に對してはエスカレーターを配して居る。

階段は正面昇降機の兩端に二ヶ所、南側に一ヶ所、西北隅に一ヶ所を配し、別に店員用階段及び日本生命用階段を有するを以て、合計六ヶ所となり、百貨店賣場にある四階段は何れも完全にシャツターを以て防火出來るようになつて居る。

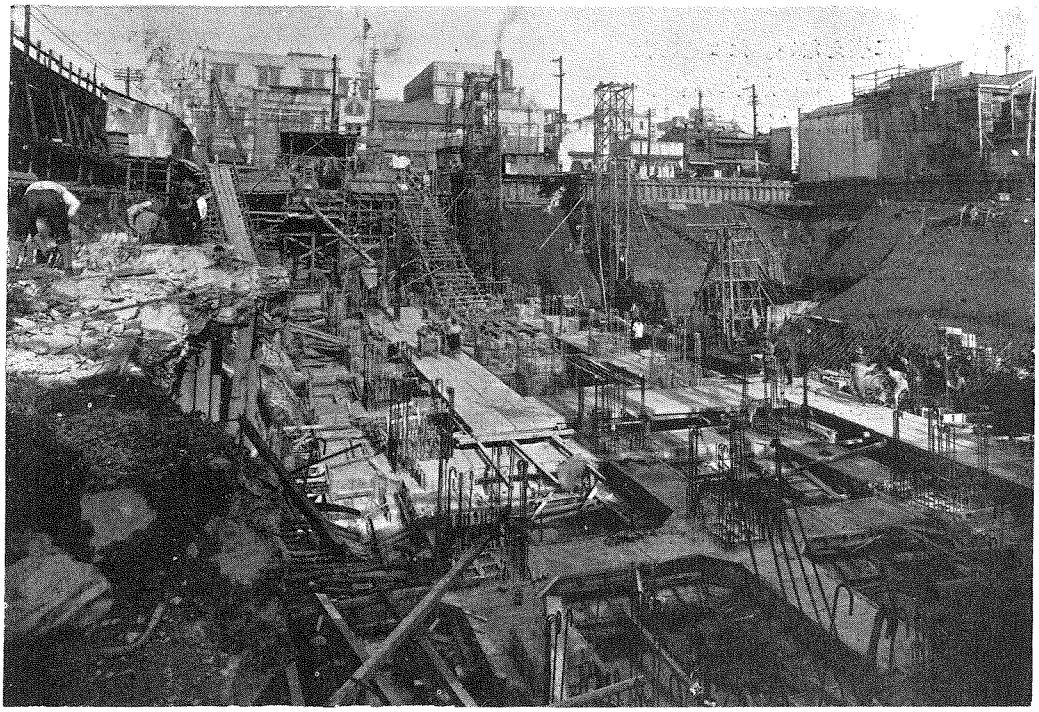
非常時に際しては、西北隅の階段、店員用階段及び日本生命用階段が、避難階段として使用される樣に用意されて居る。

別に高島屋店員用として二臺、同荷物用として二臺日本生命用として二臺、總計十四臺の昇降機を有する譯である。

階　高

地上八階、地下二階で、地下二階は相當天井高を有するが、地上の八階は現行法規の下では可なり苦しい取り方である。殊に一二階を相當高にしなければならず、且つまた八階に餘興用ホールをとるべく、注文された爲めに、その中央階三四五六七階は、可なりつめられざるを得なかつたのである。

一二階をさほど高くしないか、八階のホールを七階より吹き抜きとして各階を平均させるか 或は八階を少うし低くして事務館とし、他を高くするとか、又は場所によつては一階を少うし下つて入る樣にする等、適當なる組合せによつて階高增大を考慮する必要がある



（4）基礎工事中の狀況。

と思ふ。

階高一階15尺二階12尺三階以上七階まで11尺5寸八階13尺4寸、地階14尺で、高島屋事務館の部分は之を三層に使用して居る。

構造

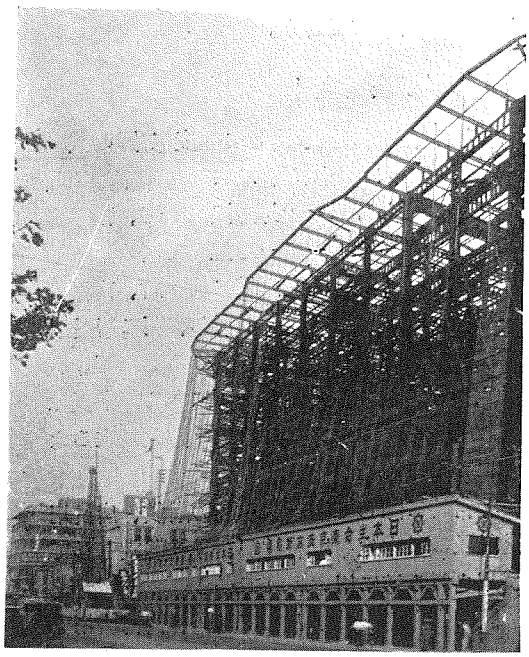
鐵骨構造で、之に鐵筋コンクリート床及び同壁を有せしめたもので、鐵骨構造としては在來のものより幾分變つた構造法をとり、あの廣ひ賣場に對して特に耐震壁等を設けず、柱梁を丈夫にして全部之に持たして居る。一二階の梁が非常に大きくなつて居るのも考へを異にした所以である。床は小梁を廢して一枚の版として居る。

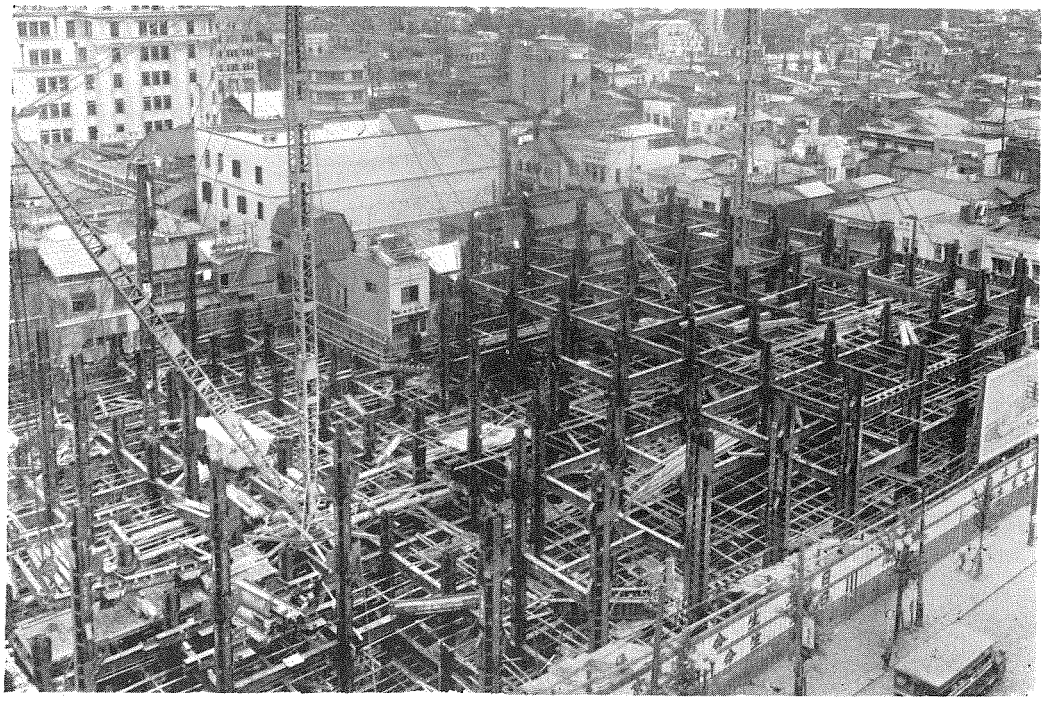
設備

百貨店の運用はその設備にまつもの甚大である。本館は十四臺の高速昇降機、五臺のエスカレーターを有し冬季の溫風煖房夏季の冷房その他のシーズンには常に新鮮なる送風設備を有し、顧客をして不快なる氣持を起さしめないように努めて居る。

また火災に對しては、自働警報裝置かあつ

（6）鐵骨の組立を了

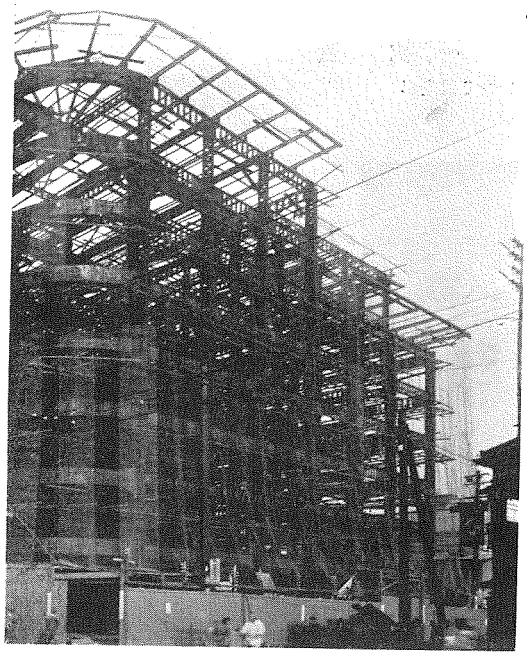




(5) 鐵骨組立中の狀況。

て、通常發火後八秒で監督室に出火場所が知れ、直ちに消防署へ通ずると同時に、全館に擴聲傳聲器があつて、それを知らせる事も出來るようになつて居る。

つたる日本生命館



地震等の場合に電氣がとまつても、自家發電によつて、五臺の昇降機と全館の四分の一位の豫備燈がつく樣に用意されて居るので、少しもあわてる必要はない。

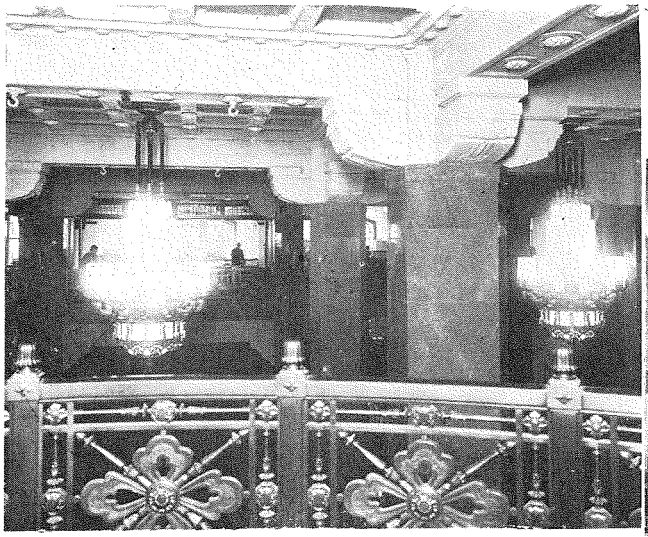
また萬一出火しても、各階に於て之を止める樣に、階段もエスカレーターもシヤツターで遮斷する樣になつて居り、然も三ヶ所の避難階段で樂々と逃げられるのである

要するに地震や火事があつたら日生館へ逃げ込めである。

意匠及び裝飾

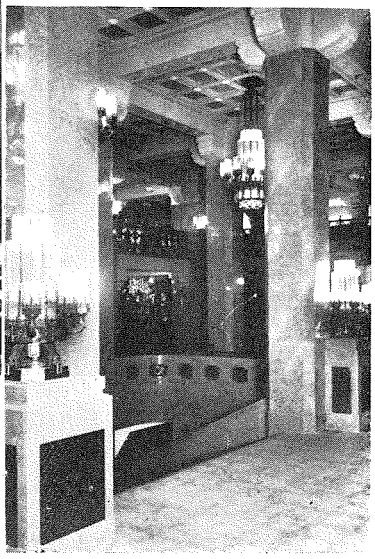
懸賞募集に當選したものを幾分變更したのであるが、大體の調子は在來の通りである。

一體建物はその內容によつて男性的なるものと、女性的なるものと、中性的なるものとに考へる事が出來るので、百貨店の如きはその女性的なるものと考へていゝと思



(7) 二階吹抜ホール天井附近

(8) 一階、地下室への階段附近



ふ。

もともと懸賞募集の要綱に、東洋風を基調とせる新様式を要求されたのであるが、果してその要求通りのものであるかどうかは解らぬ。要求に最も近い解決案であつたのであらう。

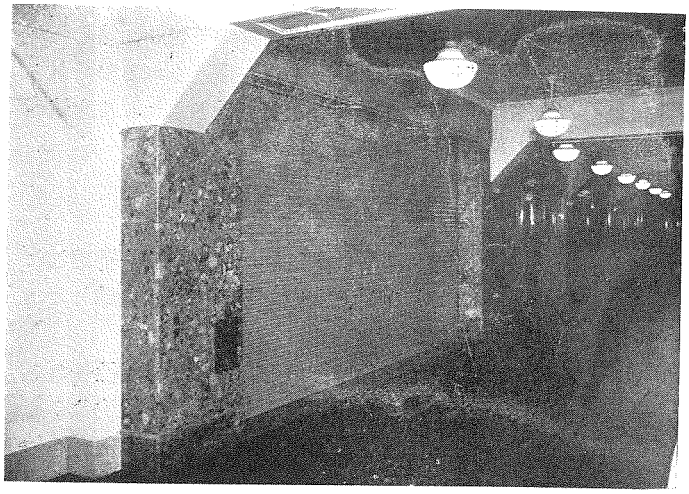
内部も大體同じ調子で裝飾され、出來るだけ極端なるコントラストや變化をさけたつもりである。(終)

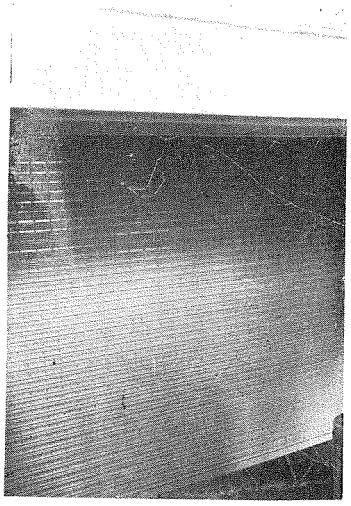
工事概要

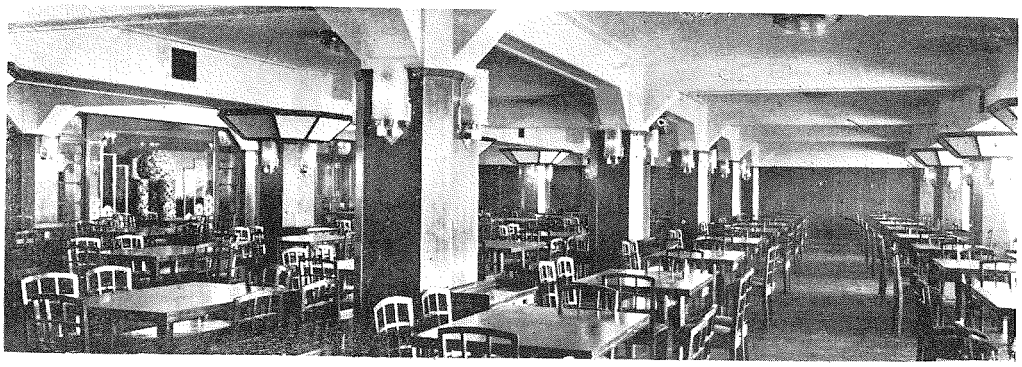
一、位　置

(11) 正面階段の仕切、特許大野式シヤツターによつて完全に防火される。

(12) 西北隅階段の防火仕切。右端の場合の出入口左側にもある。シ







(9) 七階、食堂前ホール柱はメキシコ産 Onyx de Pedrara. (10) 下の寫眞は食堂。

東京市日本橋區通り二丁目五番地

西側幅十五間電車通を前面道として北側は幅五間道路南側は幅八間道路に接す。

二、敷地面積

1086,080坪

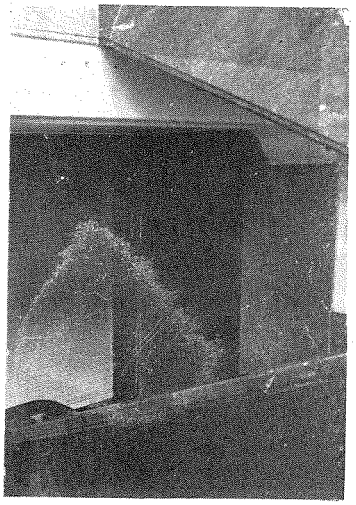
三、建築面積

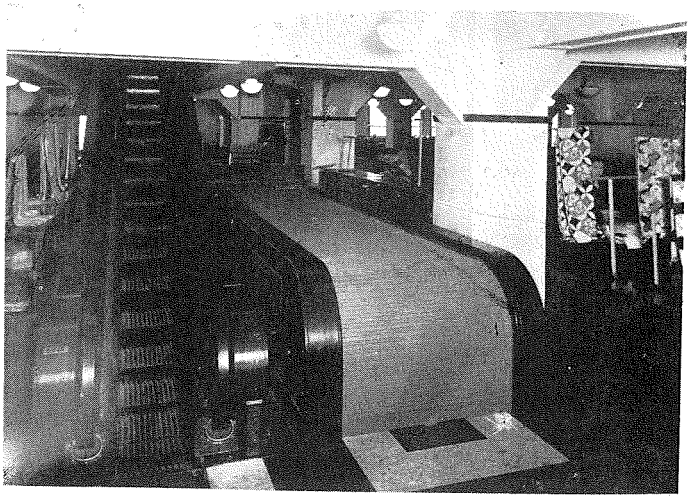
936.796坪

四、總 面 積

ドアはシヤツターが下されたヤツターは特許大野式である

(13) エスカレーター床仕切、特許大野式水平シヤツターによつて各階は完全に絶縁される。





8886.801坪

內譯	第二地階	1041.260
	中地階	171.757
	第一地階	915.740
	第一階	936.796
	第二階	749.364
	第三階	889.768
	第四階	889.768
	第五階	860.221
	第六階	856.473
	第七階	748.802
	第八階	735.145
	屋上階	91.707

五、階數

地下二階一部三階地上八階建他に屋上塔屋を設く。

六、軒高

地盤面上正面扶壁屋根上端迄 100尺

地盤面上最高塔屋扶壁上端迄 130尺

七、建物用途

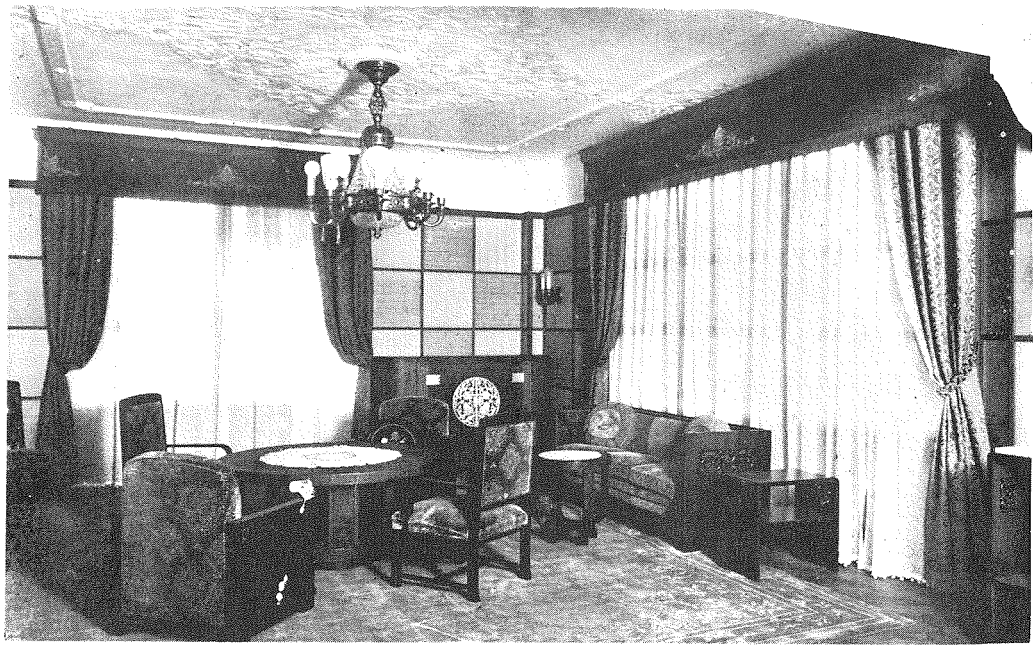
本建物は日本生命館と稱す。

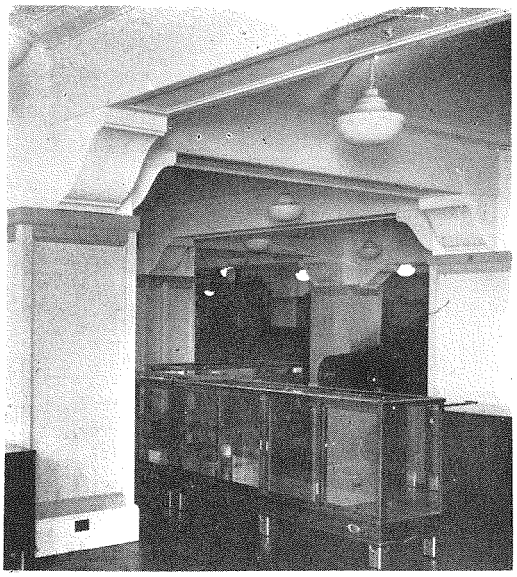
(14) 五階呉服賣場。柱は

第六、七階南側一部は、日本生命保險株式會社東京支店事務所として使用す。

高島屋百貨店營業所としては地階より屋上に至る大部分を以つてこれに充當し、

(15) 特別室。





桐の柾板で被覆されてゐる

後部館は地階より七階に至る各階を高島屋百貨店事務室として使用するものとす

八、各階室配置

地二階　機械室、電氣室、監視室、倉庫、店員更衣室、賣場、其他

中地階　店員更衣室、倉庫、其他

地一階　地下鐵連絡出入口、ホール、賣場、公衆食堂、厨房、店員食堂、浴室、客用及店員用便所等

一　階　賣場ホール、正面、北側、南側、各玄關出入口
會社用玄關、宿直室、高島屋事務室出入口、荷造場發送口等

二階より六階迄、各賣場及各特別室、各事務所、六階一部日本生命事務室、其他

七　階　公衆食堂、ホール、厨房、事務室、日本生命事務室等

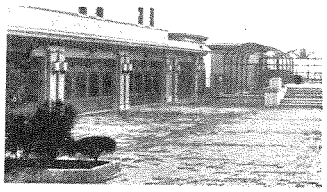
八　階　賣場、「ギャラリー」、寫眞室、美粧室、八階ホール等

屋上階　屋上庭園、ホール、電氣變壓室、無線電信室、各機械室等

九　構　造

(16)　八階ホール。床は水平である。梁は天井を高くとるため屋上に出してある。

(17) 屋、ペントハウス廊下



(18) 屋　　上

基礎、建物周圍 シートパイル 埋設、地下地盤面下37.4尺迄總堀、松杭打、割栗地形、外防水の上鐵筋混凝土造逆床版梁構造、上部柱、大梁、壁梁、小梁、鐵骨鐵筋混凝土造、床版、階段壁體鐵筋混凝土造、其他主要間仕切壁輕量鐵骨ラス塗壁とす。

十、樣　式

東洋風を基調とせる近世式（懸賞應募一等當選高橋貞太郎氏圖案に依るもの）。

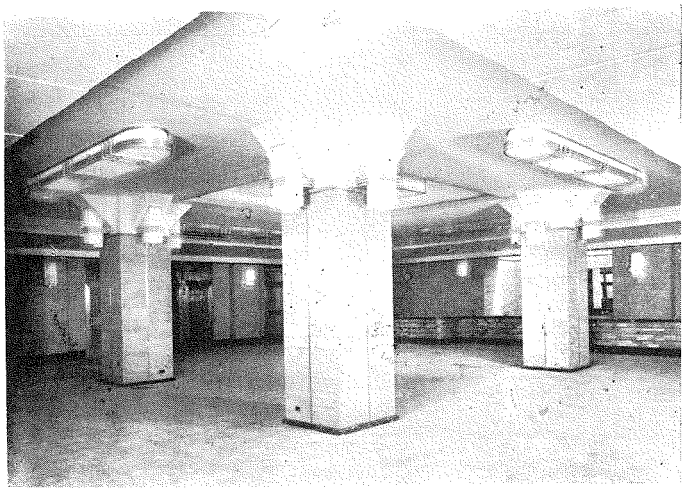
十一、外　裝

腰廻り及正面玄關柱型額緣、櫻花崗石本磨、其他周圍三階窓臺下端迄全部及 階胴蛇腹全部、櫻花崗石本磨、三階より七階迄窓廻り「タイル」(柱型特殊大型タイル)、八階窓廻り全部額緣柱型共テラコッタ、屋根軒先廻りテラコッタ、棰型モルタルペンキ塗り、塔屋外裝之に準ず。

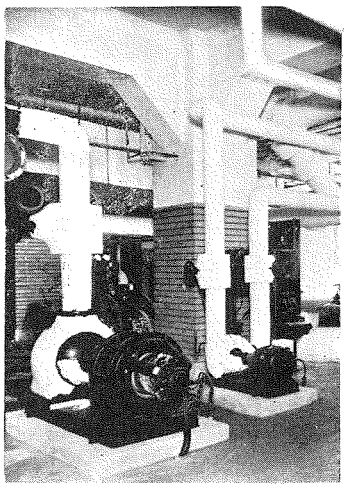
十二、窓及「シヤツター」

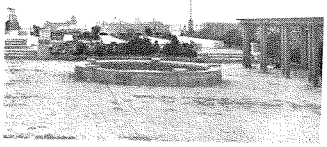
各外部窓は三建式上下「スチールサッシ」西南兩側旭硝子厚4.5粍、北側米國プロテックス 6粍、背面ラフワイヤー硝子、一

(20) 地下室のグリル。この建物全體を通じてこゝが最も新らしい型式をもつてゐる。

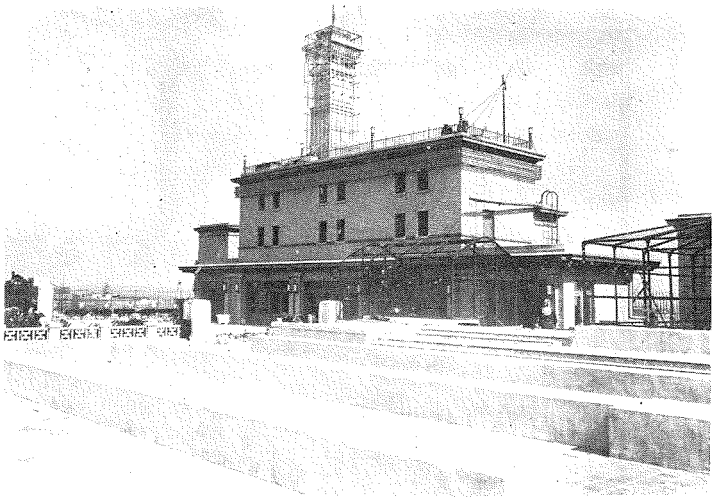


(21) 地下二階にある機械室。極度





庭　　園。



(19)　ペントハウス全景。手前に見えるのは八階ホールの梁で、植木臺等に利用される。

階及二階兩隅陳列窓枠ズリー硝子、ビルキントン13粍磨板硝子、一階大窓及各賣場階段には電動式シヤツターを以つて遮斷す、八階ホール窓二重とし、背面各窓一、二階はシヤツターを設く。

十三、內部仕上

一、地下各賣場床モザイツク、腰壁柱廻りタイル、天井壁プラスター塗、機械室賣場同樣、公衆食堂床及壁トラヴアーチン、幅木笠木黑大理石、天井プラスター塗、公衆電話ボツクス鐵製ホワイトブロンズ內部セロテツクスり貼。

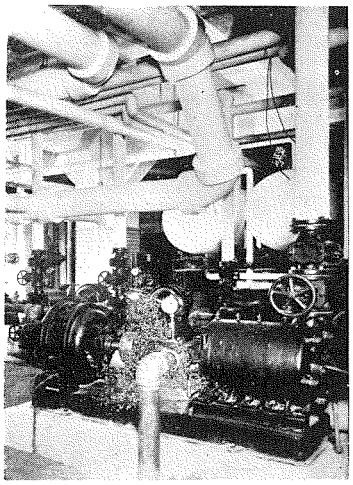
二、一階各玄關床蓬萊花崗石壁大理石、天井石膏彫刻サチナイト、賣場床トラヴアーチン、柱壁大理石、天井漆喰塗、鳥帽子叩ホール吹拔廻り、手摺ブロンズ製、梁側面及下端彫刻サチナイト、格天井格緣石膏、格間、セロテツクスペンキ色付仕上。

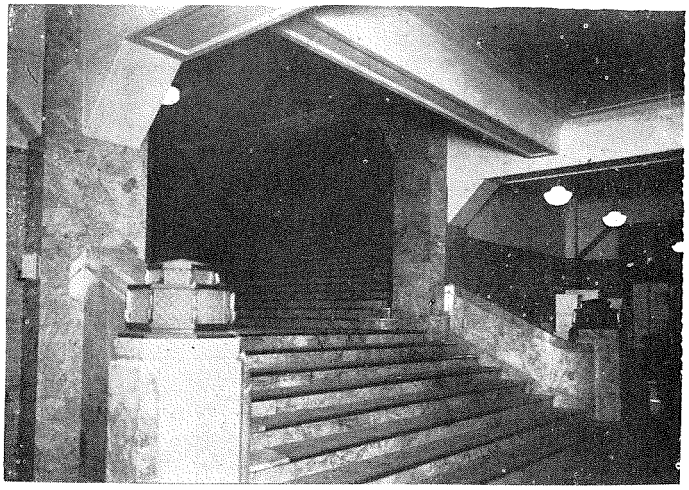
三、各陳列窓床チーク櫻、黑柿の寄木張、腰羽目チーク天井漆喰塗。

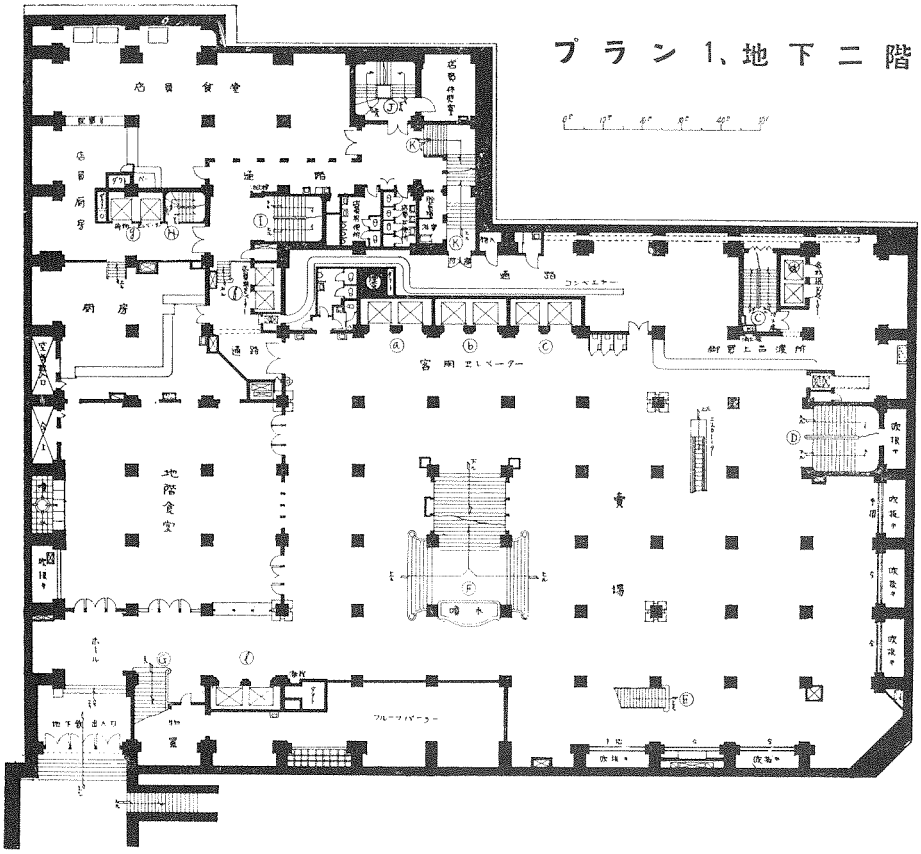
四、二、三、四、五、六、八階各賣場床

にスペースが節約されてゐる。

(22)　地下二階より一階への階段附近







フローリングブロック、幅木人造研出し、壁、天井、柱漆喰塗、三階賣場獨立柱桐ベニヤ板、其他長押は欅、各階エレベーター前壁大理石。

五、賣場各階段腰壁手摺ボーダー蹴込及梁下端大理石、踏面ゴムタイル辷止金物踊場トラヴアーチン天井漆喰塗。

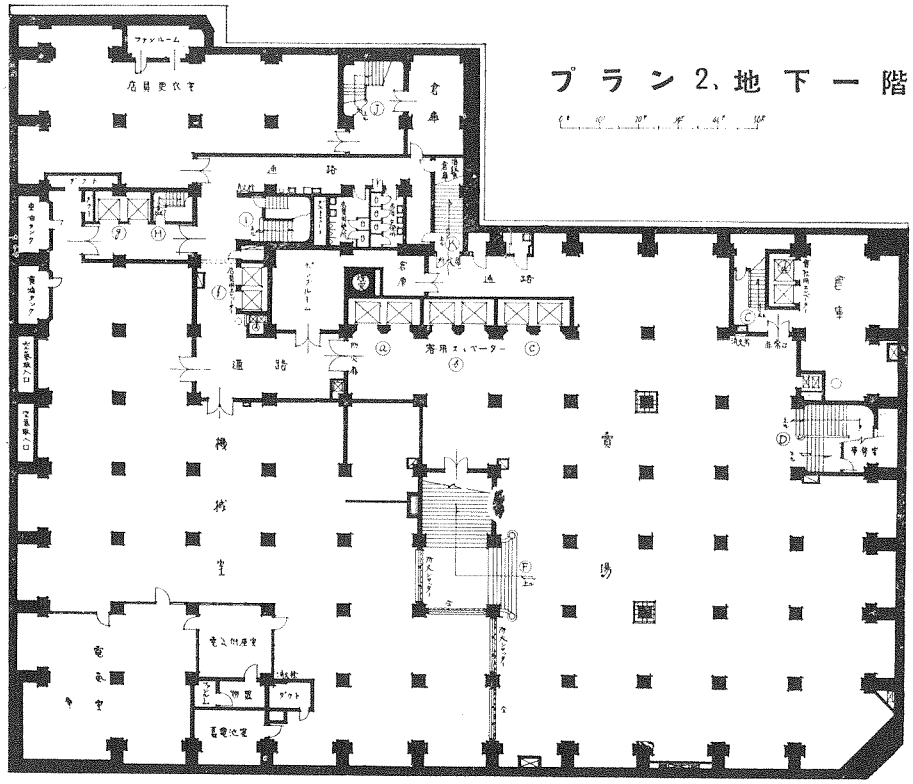
六、各階事務室床、フローリングブロック、幅木及長押米松ペンキ塗、天井プラスター腰ペンキ塗、事務館通路及階段床幅木人造研出し、四半目地切、腰モルタルペンキ塗、壁天井プラスター塗。

七、六、七階日本生命事務室床フローリングブロック幅木スクリーン等、雜作材欅ワニス仕上、エレベーター前、ホール床及階段人造研出、ホール腰大理石及テラゾー、壁天井漆喰塗。

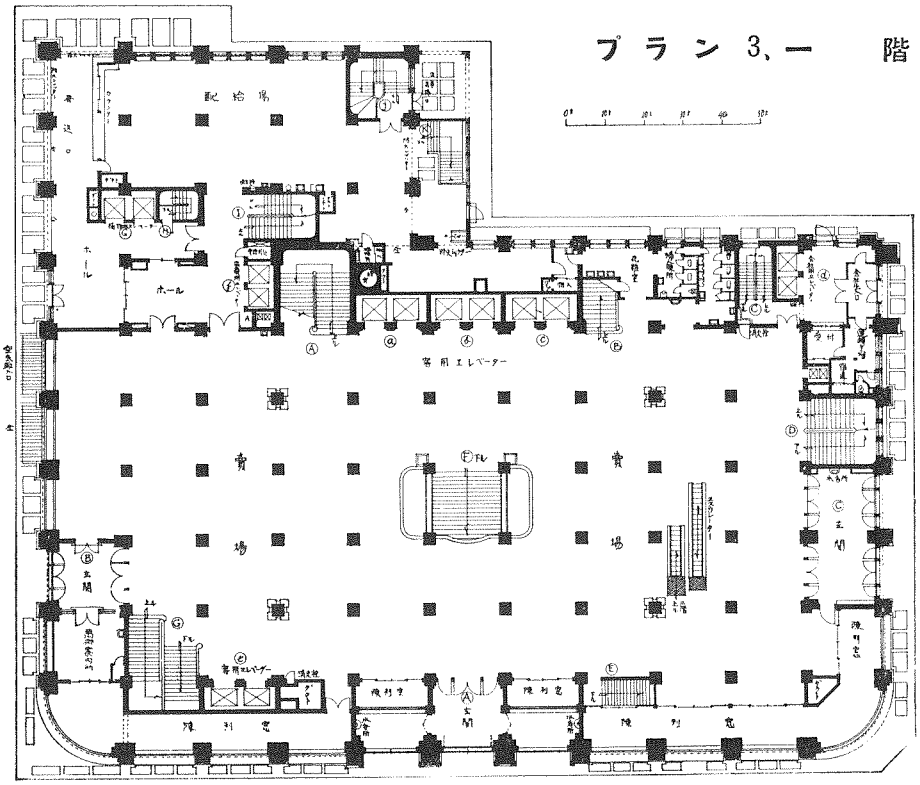
（以下次號）

編者附記

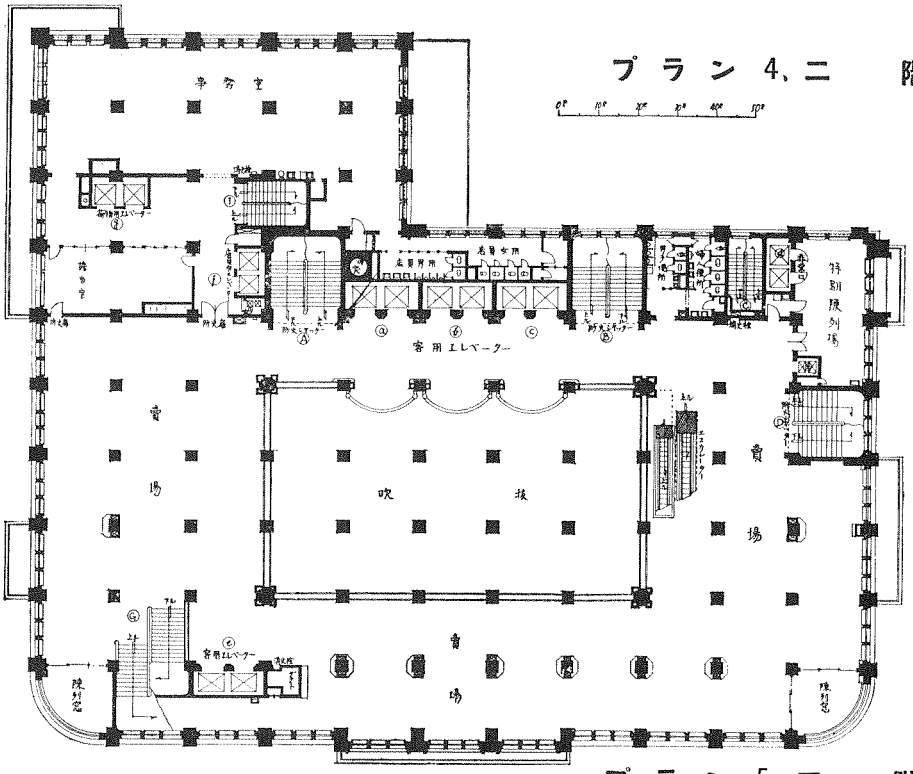
以上で日本生命館の建築的説明を終りました。筆者高橋貞太郎氏は、同館設計競技に一等で當選された人。前半は開館間際で御多忙の中を特に本誌のために書いて下すつたのです。これだけの建築ですから、設備の點でも多くの特色をもつてゐるのですが、設備工事の全部は誌上の都合で次號に廻すべく餘儀なくなりました。筆者並に讀者諸氏の御諒解を得たいと思ひます。



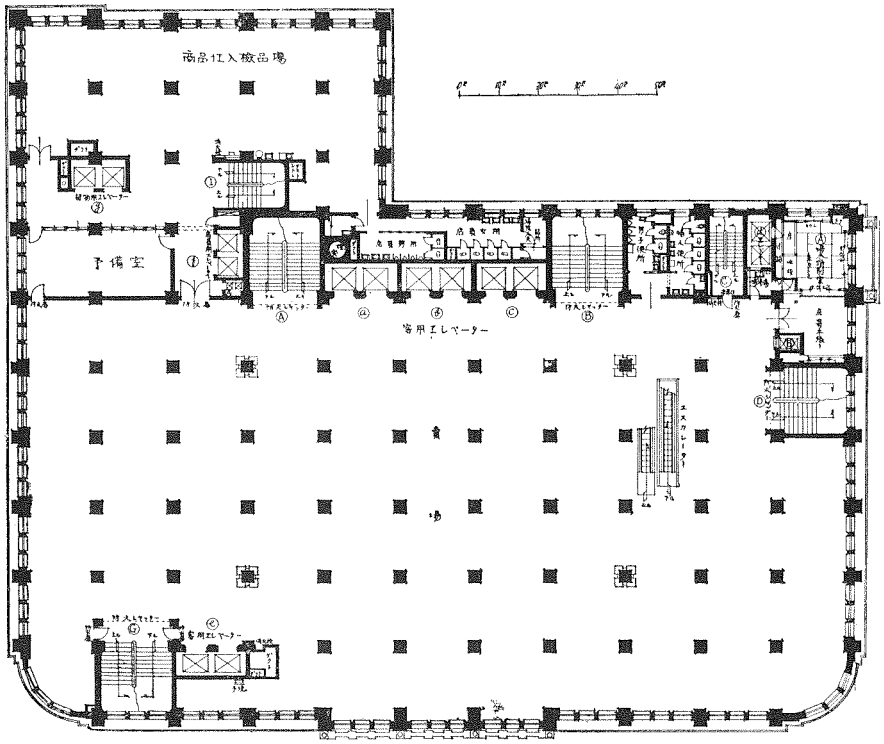
プラン2、地下一階



プラン3、一階



プラン 4、二　階



プラン 5、三　階